



道

*michi*

## 善と悪

世の中は善悪入り乱れ、種々の様相を表している。すなわち悲劇も喜劇も、不幸も幸福も、戦争も、平和も、その動機は善か悪かである。一体どうして善人もあれば悪人もあるのだろうか。この善悪のよって来るところの何か根本原因がなくてはならないと誰しも思うであろう。(中略)

私は判りやすくするため、善悪の定義を二つに分けてみよう。すなわち善人とは「見えざるものを信ずる」人であり、悪人とは「見えざるものは信ぜざる」人である。したがって「見えざるものを信ずる」人とは、神仏の实在を信ずる、いわゆる唯心主義者であり、「見えざるものは信じない」という人は唯物主義者であり、無神論者である。その例を挙げてみよう。

いま人間が善を行う場合、その意念は愛からであり、慈悲からであり、社会正義からでもあり、大きくみれば人類愛からでもある。そうして善因果、悪因果を信じて善を行う人もあり、憐愍の情止むに止まれず人を助けたり、仏教という四恩に酬いるというような報恩精神からも、物を無駄にしない。もつたいないと思う質素、儉約等、いずれも善の表れである。また人に好感を与えようとし、他人の利便幸福を願い、親切を施し、自己の天職に忠実であり、信仰者が神仏に感謝し報恩の行為も神仏の御心に叶うべく努めることも、悉善の表れである。まだ種々あるが、大体以上のごとくであろう。

次に悪事を行うものの心理は、全然神仏の存在を信ぜず、利欲のため人の眼さえ誤魔化せば、いかなる罪悪を行うも構わないという——虚無的思想であり、欺瞞は普通事のごとく行い、他人を苦しめ、人類社会に禍いをおよぼすことなどはさらに

顧慮することなく、はなはだしきは殺人さえ行うのである。そうして戦争は集团的殺人であって、昔からの英雄などは、自己の権勢のため、限りなき欲望のため、大戦争を起こし、「勝てば官軍」式を行うのである。「人盛んなれば天に勝ち、天定って人に勝つ」という諺の通り、一時は華やかであるが、必ずといいたいほど、最後には悲惨な運命に没落することは歴史の示すところで、勿論動機は悪である。(中略)

以上の理によって真の善人とは、「信仰あるもの」すなわち見えざるものを信ずる人にしてその資格あり——というべきである。故に私は現在のごとき道義的觀念のはなはだしき頹廢を救うには、信仰以外にないと思うのである。

そうして今日まで犯罪防止の必要から法規を作り、警察、裁判所、監獄等を設けて骨を折っているが、これらはちようど猛獣の危害を防止するため檻を作り、鉄柵を取り廻すのと同様である。とすれば犯罪者は人間として扱われないで、獣類同様の扱いを受けているわけで、せつかく貴き人間と生まれながら、獣類に墮して生を終わるといふことは、何たる情けないことであろう。人間墮落すれば獣となり、向上すれば神となるというのは不変の真理で、まったく人間とは「神と獣との中間である生物」である。この意味において真の文化人とは、獣性から脱却した人間であって、文化の進歩とは、獣性人間が神性人間に向上することであると私は信ずるのである。したがって、神性人間の集まる所——それが地上天国でなくて何であろう。



婦女人相十品 文読美人 喜多川歌麿  
江戸時代 18世紀 大判錦絵  
MOA美術館所蔵

「婦女人相十品」という大判錦絵十枚の揃物は、「婦人相学十躰」とともに寛政3、4年（1791～92）頃の作で、歌麿の芸術的最盛期の初期に属する傑作である。この時期、円熟期に達していた歌麿は、女性の上半身や顔を画面いっぱいに構図する新様式を発表した。前代の天明年間（1781～89）の鳥居清長（きよなが）の美人画が、全身像や群像形式で姿や衣裳の美しさを表現したのに対し、女性の顔の表情や髪型の美しさを活写したところに特色がある。またこの「婦女人相十品」の揃物は、すべて背景が雲母摺（きらず）りで、当時としては高価な雲母（うんも）の粉を用いて摺ったぜいたくなものとなっている。

## 《目次》

み教え	2
代表挨拶	4
感謝奉告 一宮	10
感謝奉告 徳島	11
紫微宮祭・教祖祭・ご墓前祭	13
豊饒祈願の日（箱根）	14
豊穰祈願祭（熱海）	15
シリーズ明主様（13）	16
聖地NOW	18
感謝奉告 鳴門	19
感謝奉告 鈴鹿	20
感謝奉告 東大阪	22
連載『令和の平安郷建設』	24
シリーズ《幸せの種まき》	26

《令和6年 信仰課題》

浄霊の 奇蹟なくして今の世に

神さとするものあらじとぞ思ふ

【実践の誓い】

- 1 み教え集『明主様に倣いて』を拝読し、み心とお姿に倣います。
- 2 周囲に礼を尽くし、感謝と報恩に努めます。
- 3 浄霊を取り次ぎます。

代表挨拶

西村 正資

聖地瑞雲郷は、春の寒さもようやく緩み、ソメイヨシノのつぼみも日に日にふくらみ、聖地をご造営された明主様のご意図にお応えしようと、ご参拝の皆様をお迎えする準備に余念がないようです。

まだまだ厳しい寒さの北にお住いの皆様、また、すで

に春が訪れつつある南にお住いの皆様、いかがお過ごしでしょうか。収縮した身体と心が解き放たれるのもあと少しの辛抱です。待望の春、すぐそこに見えています。

三月一日、箱根光明神殿におきましては『豊饒祈願の日』、熱海救世神殿では『豊穰祈願祭』が厳かに執り行われ、秋に向けて豊年万作を祈らせていただくと共に、ゆがんだ現代農法と食生活を憂い、明主様の教えを支えとして自然農法の普及と自然食を実践させていただくことをお誓いさせていただきました。

救世神殿には、全国からの参拝者の他、今年もブラジルやアメリカから五三名が集われ、共に明主様のご面会に向き合わせていただきました。

MOA美術館では「紅白梅図屏風」「色絵藤花文茶壺」「手鑑翰墨城」の国宝三点を中心とした名品展が二月二十七日をもって終了いたしました。

展示期間中は、大変な来館者数で、連日大賑わいでした。特に「紅白梅図屏風」に関しては、わざわざ遠くから、この一点を観るためにお越しになった一般観覧者も多く、中には「この美術品、本当にこちらの所蔵ですか」と、係員に再確認される方も多かったですと聞きます。また、最近では、海外からの拝観者も多く見かけられ、明主様の「美による救い」が、確実に世界に向けて伸展しているのを肌で感じています。

今秋（十一月一日から二六日）には、特別企画展として、尾形光琳筆の名品、重文「風神雷神図屏風」（東京国立博物館蔵）と当館所蔵の国宝「紅白梅図屏風」がコラボし、企画展示されます。

他にも琳派の名品や、それから着想を得た近現代の作品などが紹介される予定です。今から一部の好事家より強い関心が寄せられ、大変な話題となっております。期間中観覧者が全国からお越しになることが予想され、私も、今から楽しみでなりません。

また、七月六日から九月九日まで開催される「ポケモン×工芸展 美とわざの大発見」には、今年も大変な反響が予想されます。所詮「子供向け企画だ」と私の認識不足で軽く考えていたのですが、昨年の開催では、マニアの方々や夏休みの親子連れ等で、連日の大賑わいであったと聞いております。

皆様も、是非聖地参拝を終えて、拝観されてはいかがでしょうか。

## 『道』二月号（69号）感謝奉告に学ぶ

田川布教所のIEさんです。

コロナ禍における閉塞感と帯状疱疹の痛み、そしてその後遺症等で信仰不信に陥り、布教所から遠のき、「死んだ方が楽になる」と、精神的にも不安定になっていた

ようで、神様、明主様、先祖様、亡き友人に不満をぶつけていたそうです。

良かったですよ。ぶつけるとところを見つけれられて。それで良いのですよ。そこはすべてを理解し、我が子を愛で包み込み、浄化して下さるところですから。生身の人に不満をぶつけると、そこに信仰が無ければ、より一層の混迷に陥ったのではないかと想像します。

何故、神様、明主様、先祖様にぶつけれたのか。それは、その見えない存在を、心のどこかで信じていたからでしょう。Iさんは、何故信じれたのか。それは朝夕のみ教え拝読を実践してきたことで、明主様との霊線が太くなり、光の交流が強くなつて、導かれたのでしょうか。

み教え拝読が救いになりました。み教えは「目からの浄霊」でもありますから、心配されたご先祖様が霊界からみ教え拝読に仕向けられたのではないのでしょうか。

また、娘さんからも「お母さんの性格ではきつと後悔するから」布教所に行くことから始めたら」と言われ、そうよね。原点に戻ればいいよね」と気付いています。一歩間違えれば、死を選択したかもしれません。見えな世界からの導きや守りは、見える世界の人を通していただけのことも多いのです。適切な助言をした娘さんにも感謝ですね。家族の信仰の支えが、命を救ったのかもありません。普段から家族間の正しい触れ合いが如何に大切かを、改めて感じました。

また、布教所へ行けば、親身になって支えてくれる仲間もいます。何もない時には、ついついわがままから、うるさい存在と感ずることがあるかもしれません。丁度親が子供に対して「勉強は？宿題は？」と言うようなことなのかもしれません。「これは貴方のためよ！」と、押し付けられているように感じて、その人を避けるようになる話も、時々耳にします。

信仰仲間では、苦しくなった時、本気で支えてくれるのは、普段は「うるさい」と感ずるような方々なのです。それは、目先の一時的な優しさではなく、この先の霊界まで継続される他人様の幸せを心の底から願う「明主様と共に歩んでいただければ、必ずやどこかで気付き喜んで下さる」と信じ願っているからこそ、本筋を伝えて下さるのです。

この度は、良い学びをされましたね。これからも「み教え拝読」「参拝」という基本を大切に、そして家族や触れ合う方々にもっともっと感謝し、まずはしっかりと健康を回復なさって下さい。健康になれば、今以上に明るく前向きな心もよみがえります。

### 名古屋栄グループのT.I.さんです。

T.I.さんは、例年花粉症の症状が出て、悪化することを繰り返していたそうです。昨年、所属していたM教の先生から「浄霊してはいけません」と言われたそうで、それ

でも「私は、浄霊が無ければ生きていきません」と宣言し、自己浄霊を続けたそうです。時を同じくして、ご主人も糖尿病の数値が気になり、自己浄霊を始めました。

その頃、旧知の和田先生がM教から「明主様と聖地に直結する会に移った」ということを耳にし、話を聞きに訪ねました。自分が悩み始めた時期と先生が聖地直結の会に移った時期が重なったことに、明主様のお働きを感じ、今では大変感謝されています。

その後、聖地直結の会に入会、浄霊を徹底されると共に散歩を心がけるなど努力もされ、ご主人の糖尿数値は標準値になるまでに回復、医師も驚いたとの、喜びの奉告でした。

振り返れば、花粉症がひどくなり、ご主人の糖尿の値が上がれば、浄霊を止められ、困っている時に、和田先生の信仰決意の噂を聞かれる等と、様々なことが同一時期に集中しているようですが、これがご縁であり「時期」ということでしょうか。時期は許され事であり、何事にも時節があり、大切なことであるとみ教えいただいておりますが、その時に、信仰を見つめ直され、当会に参加を決断されました。これがご縁なのでしよう。よくぞ入会を決意されました。

その中でも重要な役割りを果たされたのは「浄霊してはいけません」と言われたM教の先生ではないでしょうか。感謝してみませんか。T.I.さんを明主様の下に送り出

す重要な役回りを果たして下さったのです。

神様は、いろんな手段を取られます。私の胃癌発見のケースでは、アニサキスという寄生虫検査のお蔭で偶然早期発見されたのですから、私は三匹のアニサキスに感謝をしなければなりません。もちろん寄生虫を敬い、他人様にお勧めするものではありませんが、自分の人生にとつて恩人である事実を思えば「何人にも、どんなことにも神様の働きがあり、感謝すべきことがあるのだよ」と教えられているように思います。お蔭で、私は今も元気でご奉仕が許されています。

『感謝が感謝を生み、不平が不平をよぶ』と、明主様は教えて下さいました。小さな子供にも分かるように、こんなな明解に、しかも簡略に、誰でも実行できる「幸せへの道筋」を示して下さいているのです。

あまりにも簡単すぎて、軽く受け止め、つい忘れ、実行できていないというより、逆の方向へと舵を切っていることが多いのではと、反省いたします。

「他の人々にも、この経験を伝えたい」と、Tさんは仰っています。ぜひ感謝と共にお伝え下さい。それも報恩の重要な行為ですし、そのことが次の嬉しいことを生み出すことになるでしょう。

田川布教所のMHさんです。

昨年一二月二三日、聖地での『明主様御生誕祭』に参

拝された喜びを奉告されました。出発は前日の二二日早朝でしたが、二一日からは雪が降り、道路が凍結すれば飛行機に乗れなくなると、空港近くのホテルに宿泊されています。このような心の構えは、既に明主様に通じているものと思います。「行けたら行こう」という半端なものではなく、「何があっても行く」というこの構えを、明主様には、とてもお喜びになられるのではないでしょう。Mさんの構えが良いですね。

神様のことは、肚を定め、諦めないことが肝腎です。私が長崎に赴任していた時のことです。若い信徒の友人Hさんが「おひかり」を拝受されました。ある時、布教所に参拝し、受付に貼り出してあった「聖地参拝申込表」をジッと見つめているのを見かけましたので「どうですか。一緒に聖地参拝しませんか」と声を掛けました。Hさんは「私は今、自宅で織物をしてお小遣い程度を稼いでいる状況で、親に迷惑をかけている立場ですから、とてもこの旅費四三〇〇〇円は無理です」と、返事されました。私は一瞬納得しましたが、駄目もとで「本当に行きたい？」と聞きました。「もちろんです。でも、とても無理です」との返事。再度「本当に行きたい？」と、質問を繰り返して、気持ちを再々確認をしました。それで「Hさんは、〇〇さんの紹介で入信されたけれど、信仰の経験は何も無いでしょう。一度神様ってホントにいらっしやるかどうか、試してみませんか。貴女が本当に聖地

参拝に行きたいなら、神様にお願ひしましょう。神様は、入信して間もない方には、案外甘いところがあるから、聞いて下さるかも知れませんよ。試してみませんか」と、祈願書をお捧げすることをお勧めしました。彼女は、ありのままを記入し、一緒に祈願参拝を終え、夕刻帰宅しました。

翌朝八時過ぎに布教所の電話が鳴り、受話器をとると、向こうで「クツクツクツ」と、笑う声があります。先方から「Hです。できました」と、言うのです。良く聞くと、「昨夜自宅に帰り、しばらくして古い友人から突然電話があり『貴方に返さなきゃならないお金を今度持つていきます』と言ってきたんです」と、言いますので「聖地に行く旅費ができたの？お玉串料も出るの？」と聞きましたら「はい。旅費とちよつとです」との返事で、私の方が驚きました。詳しく聞きますと、数年前に織物の依頼を受け、織り上げて届けたのに、イメージと違うという事で代金が入らず、諦めてすっかり忘れていたそうです。彼女は「神様って本当にいらつしやるんですね！」「こういうのをご守護って言うんですか？」と。私も一緒にになって「凄いね！ご祈願をして半日。あり得ない。ビックリだね」と、感動の言葉しか出なかったことを覚えていません。改めて、聖地参拝は、許され事であると再認識しました。

Mさんは、羽田到着後「明主様御生誕地」「岡田家菩提

寺」「浅草寺」等、ゆっくり楽しく回り、熱海に入りました。普段は杖が無いと歩行が大変になるようですが、その日は他の荷物と一緒にロッカーに預けてしまい、心配されたようですが、普段以上に腰がまっすぐ立ち、とても楽しく周遊されました。また、翌朝には、聖地水晶殿から、遠く相模灘に昇る日の出を楽しまれています。明主様が「よく来た！これを見てごらん。これも素敵だよ」と、Mさんの周囲を走り廻ってご案内されているように感じます。

田川市は九州福岡県の丁度中央に位置し、交通の便があまり良くなく、当会発足当初は、聖地参拝にお越しになる方は僅かでした。しかし、ある時期から急に参拝される方が増えました。そのきっかけを振り返ると、久しぶりにご参拝された方が、聖地での体験に改めて感動され、それを布教所の祭典等で奉告されたことから始まったように思います。この機関誌にも、田川布教所の皆様の聖地参拝の喜びの声が多く掲載されてきています。

聖地において魂が浄められ、その感動や喜びのご奉告が、大きな役割を果たしているように思います。感謝の想念や言葉は、力を蓄えその地域の霊界を明るく変えるのです。霊界の輝きは、そこに住まう方々の魂に強く影響を及ぼすとみ教えいただいております。今、田川布教所は、聖地参拝の花盛りと言ったところでしょうか。嬉しいですね。



皆様のご参拝を、職員一同楽しみにお待ちしております。



ムアスクエアから望む相模灘

ご挨拶の冒頭で、MOA美術館の社会的評価の高まりをご報告しましたが「明主様と聖地に直結する会」におきましても、明主様のご神業の伸展に遅れてはならじと、五月一二日(日) 一一時から二時一五分まで、京都聖地平安郷において『全国信徒集会』を開催いたします。

また、八月の三日〜四日『青年学生錬成会』を、京都平安郷にて開催する予定で企画を進めております。

教団は、この度厳しい浄化を受けました。皆様にも大変な不安やご苦勞をお掛けしました。今も、本当に申し訳なく感じております。そうした中にも、教団そして当会には、明主様が思い描いて来られたご神業が確実に伸展する希望の光が見えてきております。

「明主様と聖地に直結する会」単独で、このような企画が進められること自体、奇蹟であり、夢のような喜びに包まれております。ひとえに皆様の信仰の姿に、明主様がお応え下さったものと心より感謝いたします。

いよいよ、森羅万象が芽を吹き、命の躍動を始める尊い時期となりました。その万物の主軸を担う私どもの役割は、とても大きいと思います。

感謝を整え、明主様への祈りを合わせ、誠を合わせ、行動を合わせて、清新の気みなぎる天国造りに、お互いの足元から一歩一歩ご奉仕させていただきます。

私も、皆様と共に、努めさせていただきます。

## 感謝奉告

### グループにいただいた入信者

一宮グループ A M

一宮グループに入信者のお許しをいただきました。入信までの経過を含めて、ご奉告をさせていただきます。

入信が許されたのは、この春、小学校四年生になるN G君です。母親のNMさん（信徒）、祖母のSMさん（信徒）の三人暮しです。SMさんは、五年前に帯状疱疹に罹患された頃に、「明主様と聖地に直結する会」に所属され、それ以来、毎週、自宅に浄霊訪問にお伺いさせていただいています。帯状疱疹の痛みはひどく、愛知医大でも治療を受けましたが、完治するどころか身体が弱るばかりでした。一昨年の秋から医療を中断され、浄霊にお縋りしておられます。現在は神経痛に悩まされて、日常生活も辛い状態です。母親のMさんは、二〇年程前から難病ともいえる皮膚疾患を抱えながらもお勤めに行かれ、何とか家事もこなしています。

今年のお正月に、G君が突然、「お母さんにもおばあちゃんにも浄霊をしてあげたい」と言ったそうです。新頭さんから一月の祈願参拝の折に「孫が『おひかり』をいただいでお母さんにもおばあちゃんにも浄霊をしてあ

げたいと希望しているので、入信のお許しをいただきました」とお申し出がありました。早速、大島先生から「明主様と聖地に直結する会」に状況を報告していただき、二月一八日に入信式を取り行なう運びとなりました。

G君は、入信式が楽しみで楽しみで、「あと何日、あと何日」と指折り数えていました。「おひかり」をいただけることをこんなに喜んでいるとは、私達大人も嬉しくなりました。Sさんも、「まさか孫が自ら『おひかり』をいただいで、浄霊をしてくれるとは考えたこともなかった」と、喜んで語っていました。

二月一八日、いづのめ岩倉浄霊センターをお借りしての入信式です。近隣の信者さん達も参拝し、見守ってくださいました。大島先生から「おひかり」のお取り扱いや浄霊の取り次ぎ方等、大切なお話があり、「おひかり」拝受式のあと、信者さん達と一緒にお祝いの集いをしました。ジュースで乾杯、口々に祝福のメッセージを伝え、今までにない感動的な入信式を、皆で楽しませていただきました。

後日、Sさん宅へ浄霊訪問した時に話を伺うと、G君は、毎朝午前七時に、おばあちゃんと一緒にご参拝することが日課になっているそうです。そしてG君が学校から帰ると、まずおばあちゃんと相互浄霊をし、お母さんには、仕事から帰ってきてから浄霊のお取り扱いをされています。また別の日ですが、私が訪問をしてSさんに

浄霊お取り次ぎして帰ろうとした時、丁度、G君が学校から帰ってきました。G君は、すぐに手を洗い、それから真つ先にご神前に行き、三宝にお預けしていた「おひかり」を首にかけていました。(体育のある日には「おひかり」を外して登校してます)

小学生の子供が、家族に毎日継続して浄霊をお取り次ぎされていることに、私の方がびっくりして心が熱くなりました。心の底から、Sさん、Mさん、G君の家族の幸せをご祈願させていただき、これからも親身になってお世話させていただきたいと思えます。

今年「信徒の増員」が私達グループの信仰課題です。お蔭様で一宮グループ結成以来、初めての入信者が許されました。これも一宮グループ信徒の皆様が発展を意識され、日々ご祈願くださっているお蔭です。皆様に感謝でいっぱいです。

大神様、明主様、今後共発展に向ってお力を賜りますようお願い申し上げます。

## 感謝奉告

### 妻と共に歩む信仰四〇年

徳島集会所 SK

私たち夫婦は世界救世教に入信して約四〇年になります。世界救世教信者の知人宅へお伺いしたとき妻が、「この神さんは良いから入りたい」と後日、夫婦で入信し、その後御神体のご奉斎もお許しいただきました。

明主様のみ教えを求め、平成三〇年、「明主様と聖地に直結する会」発足当時から会員登録させていただけます。しかし残念ながら聖地参拝のお許しがいただけません。日が過ぎていました。

大桑先生が浄霊に来てくださったたり、夫婦で大桑先生宅での集会や信者さん宅での浄霊集会にも参加させていただいていました。すぐにコロナ禍で集会が開けなくなり、浄霊をいただく機会も少なくなりました。

四年ほど前まで妻は仕事に行っていました。会社も気に入って通勤していましたが、社内の人間関係がうまくいかない状況が続く、体調を悪くして退職し、しばらくは家で養生していました。その後、通院を続けるも体調は芳しくなく、精神的なものであろうということと二〇日ほど入院しました。退院後は、私が休みの時や仕事か

ら帰ってから、一緒に散歩に行くなどして過ごしていました。でも、昼間は妻が一人でいることがほとんどです。

昨年七月一四日、たまたま私の仕事が進んで家にいたところ、妻が急に震えだし熱もあったので救急車を呼びました。病院へ行ったら熱中症ということでした。病状が重症であったため「延命治療をするか」と尋ねられるほどでした。延命治療は、妻自身も望んでいないと思うし、私も希望しませんでした。あとは明主様にお任せしようのご祈願とご浄霊のお取り次ぎを毎日続けました。

「もし、私が仕事に行って留守であったら」と考えると、おそろしくなりますが、これも明主様が見守ってくださっていたお蔭だと感謝しています。熱が下がらず、意識がもうろうとした状態で点滴を続けていましたが、一ヶ月程して医師から「経鼻胃管挿入しようと思うがどうしますか」というお話があったのでお願いをしました。その後、少しずつ体力も回復してきたように思います。発熱は続いており、「検査してもはっきりした原因はわからない」と言われました。「心臓や肺に水が溜まっている」と言われ肺の水を抜いたりもしました。入院中にコロナに感染したため、面会できない期間が二週間ほどありました。

二ヶ月程すると転院せざるを得なくなりましたので、以前通院していた病院へ転院し、その後、続いていた熱も下がり、一月には経鼻胃管挿入も取れ、普通に話も

できるようになりました。

Mさんが、電話で状況を聞いてグループの方々に報告してくださっていたので、皆さんがご祈願や遠隔浄霊のお取り次ぎをしてくださいました。私自身も面会出来ない時は、遠隔浄霊をして、ほとんど毎日浄霊のお取り次ぎを続けていました。妻が心から信仰してきた世界救世教があったからこそ、心強くこれまで頑張れたのだと明主様に感謝しております。

体力も少しずつ回復してきましたが、何カ月もベッドの上での生活であったので、歩行が難しくなっていました。私自身も仕事に行っている関係で、妻を自宅で介護することは困難なので、病院併設の施設でしばらく生活できるようお願いし、一月九日に施設に移ることができました。今は施設からデイサービスに行ったり、歩行用の補助具を使って歩行訓練に励んでいます。暖かくなり妻も歩行ができるようになったら自宅で生活をさせたいと思っています。

このように妻が回復できたことを、大神様、明主様に感謝するとともに、Mさんをはじめ「明主様と聖地に直結する会」の皆様が、「ご祈願や遠隔浄霊を続けてくださったお蔭だと、感謝しています。これから、自分が実践できることを明主様とお約束をして、取り組んでまいります」と思います。本当にありがとうございます。

紫微宮祭（箱根）／教祖祭（熱海）／御墓前祭（箱根）



先達の御霊と共に、明主様帰一の道を歩む誓いと、世界経綸の伸展を確信した紫微宮祭



瑞雲郷に梅が咲き誇る中、厳かに明主様をお讃え申し上げ、地上天国実現への誓いを新たにしました



雪が残る中、奥津城には明主様をお慕いする信徒の姿は絶えることがなかった

明主様が神界からお働きになられて、69年となる。年一年と霊界からの人類救済の熱き思いと働きが強く感じられる中で迎えた教祖祭となった。

農業と信仰の実りを祈る豊饒祈願の日（箱根）



自然農法の豊かな実りと共にご神業にも豊饒を祈願する



今年は、箱根の建設が大きく進む年になるとの奉告が理事長よりあった

豊饒祈願と共に、能登半島地震の復興を祈願された。奉告に当たった北陸エリア担当者は、炊き出しとお花の奉仕に取り組む中に、明主様のお計らいを感じることができ、益々ご用に意欲をもって取り組みたいと、聖地を出発した。

ご神業の願いを自然農法産種子に託す豊穰祈願祭（熱海）



豊穰を願い自然農法産の種籾や野菜の種子が供えられた



とても明るいブラジル参拝団

救世済民の農法として、明主様が提唱された自然農法が、国の「みどりの食糧システム戦略」のもとで、求められる存在となってきた。ご神前に供えられた種子には、明主様の人類救済のみ心と自然農法実施者の熱い祈りが込められた。

## シリーズ 明主様(13) “順風満帆”

### 正義感

若いころから晩年にいたるまで、教祖の一生を貫いて変わらなかつたその性格はどのようなものであつたか、また、その根底となつている信念はなんであつたかを考えることは、教祖を理解するうえにきわめて大切である。また、教祖その人を全体としてとらえるうえの近道でもあろう。

教祖の、とらわれることのない無償の愛の発露、時代を先取りする新しいもの、合理的なものを絶えず追及してやまない進取の気性、これらはいずれも一生変わることのなかつた性格であるが、さらに人並み外れた正義感の強さもまた、その生涯を一貫していた性格である。これについて、教祖はみずから、

「私は生まれつき人並外れて正義感が強い……。」  
と述べている。

この言葉は、その正義感の強さは生まれつきであつて、後の環境や教育などによつて得たものではないということの意味している。しかも、生まれつきのこの性格は、何より自分に向かつて、自分自身を厳しく律して不正を行わないという自戒であるとともに、他人に対しては、その不正や悪徳を黙つて見過ごすことを許さないものであつたのである。

岡田商店の旭ダイヤが大成功をおさめ、業界のトップに立つと、同業者の妬みやいやがらせもしだいに目立ってきた。そういうとき、どんな仕打ちを受けようとも、あくまで信念を曲げず、たとえ損得にかかわることがあろうと、そんなことはいつさい度外視して正義を貫くために戦つたのであつた。そのため、たとえ一時は不利なことがあると、いつしか形勢は逆転し、ついに先方は降参してしまふといった具合で、最終的には、最初の不利を取り返して、なお余りあるほどの利益をもたらすこととなつたほどである。事実、つぎのようなことがあつた。

旭ダイヤの特許をとつて、三越と特約を結び、大量の商品を取り引きしていた大正五年（一九一六年）ごろのことである。小間物・小売商組合が、二種類の商品のうち一種を自分の方にまわし、他の一種を三越に卸してくれという、大変に虫のよい要求をしてきたことがあつた。それはすでに約束ずみの三越を踏みつけにすることになるので、もちろん応じるわけにはいかない。すると組合は力尽くで彼らの要求を通そうと、東京全市の小売商に呼びかけて岡田商店の製品の締め出しを図るといふ強硬手段に訴えた。その結果、岡田商店が大打撃を受けたことはもちろんである。しかし、圧力に屈することなくよくこれに耐え抜いた。その結果、二年ほどして、とうとう組合の方から折れて来て、問題はおのずと解決したのである。

また、ちょうどそのころ、今度は三越が取り引の上で無理



な要求をしてきた。そこで教祖は、躊躇うことなく取り引きの停止を申し入れた。驚いたのは三越の方であった。

「今まで、たいていな無理を言っても、問屋の方で我慢するのが常になっていたが、今度の君のような気の強いことを言つて来た人は、かつてなかった。」

と言うのである。しかし、道理は教祖の方にあるので、結局三越の方から折り合つてきて決着がついたのであった。

正義や道理よりも、利益を第一義にすることの多い商人の世界にありながら、小売商組合を相手取り、あるいはまた、天下の三越を向こうにまわして、損害がわが身の上に及ぶことを万万承知ばんばんのうえで、正義を貫いたのである。

このころの教祖は、事業にもある程度成功していたし、自分自身でも何か社会に役立つことをしたい、少しでも社会悪を減少させたい、という気持ちがあります高まっていた。そのためには、一体何をすれば一番効果があるだろうかと、いろいろ思案を重ねていたのであった。

当時、まだ無神論者であったためであろうか、共産主義者が弱者を助け、権力者をつき、働く者、正しい者の世界を造ろうとしていると聞き、大いに富を得た後は、ひとつ共産主義の運動を援助しようかと真剣に考えた時期もあった。そうした思案の末、心に決めたのが、新聞の発行である。

当時はテレビはいまでもなく、ラジオ放送さえ開始される以前のことである。人々はおもつぱら新聞によって世の中の出来事や、世論の動向を知るほかはなかった時代である。し

たがって、社会に占める新聞のもつ働きと役割は今日に比べて、比較にならぬほど大きかった。

しかし、当時の新聞は、しばしば新聞社が発展的解消をしようとして合併がっぺいを行ない、しだいに大型化する傾向にあった。

それとともに、報道の早さ、正確さが重視され、また一面、大衆に娯楽を与えるといった傾向が強まってきた。それだけに卓越たくえつした思想をもって社会に自社の信念を訴えるという働きに欠けるようになっていったのである。

かつて黒岩くろいわるい涙香は、社会の不正を糾弾きゅうたんし、貧しい人、悩める人々の立場から、日本を憂うれえ、日本の歩むべき道を説いたが、その涙香なみかの萬朝報よろずちようほうを愛読し、こうした新聞界の傾向を嘆なげかわしく思った教祖は、社会悪と戦い、社会悪を矯正きよちゆうせいするよ  
うな新聞の経営を考えたのである。準備にあたって調べたところ、たとえ中規模の発行部数の新聞であっても、一〇〇万円まんの資金を要することがわかった。そこでそれだけの金を一日も早く作ろうと決意したのである。

…次号に続く『東方之光』(上巻)より

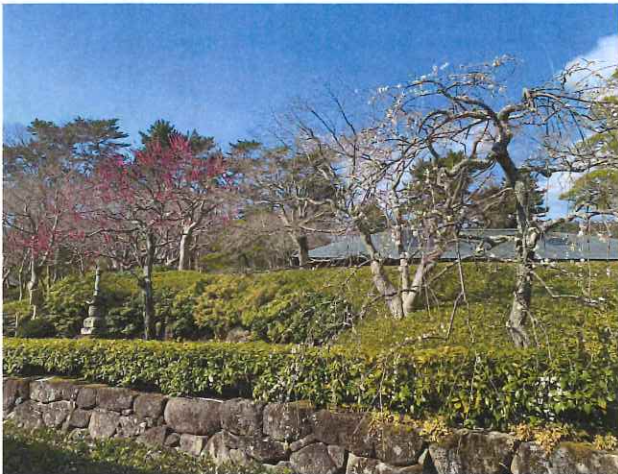


山月庵と弥生雪

神仙郷



石楽園に楚々と咲く椿

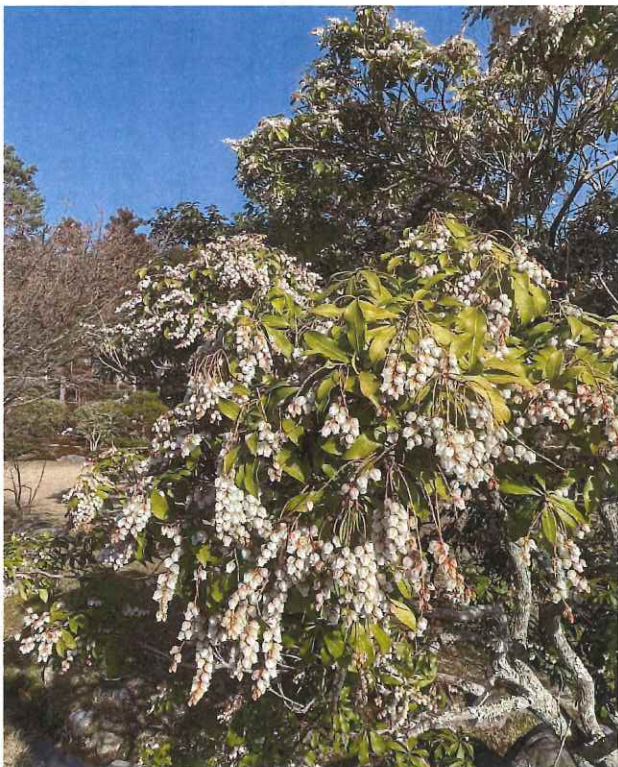


美術館一白庵前の紅白梅

瑞雲郷

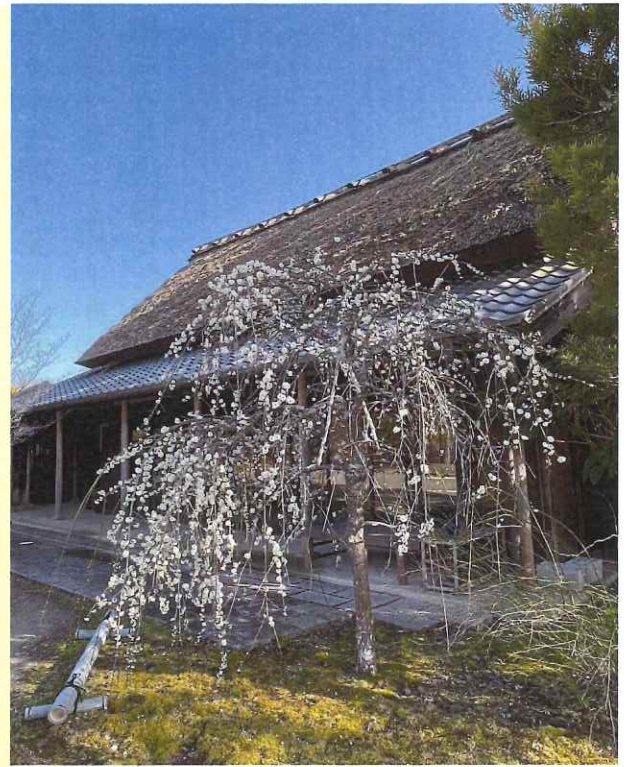


桜山の山桜



馬酔木(ジャパニズ・アント・ロダ)

平安郷



楠風荘の枝垂れ梅

## 人様を救う信仰をめざして

鳴門グループ MA

二月二三日、鳴門グループの布教所であるOさん宅で、「何か一つ、私に学ぶ事が出来ますようお願いします」とご神前でお祈りし、徳島市内の通称「あかつき」施設で徳島県代表者会に参加させていただきました。

徳島県下の3グループから、熱心に信仰されている信者さん五人が参加していました。そして、十一月一日に行われる徳島県信徒集会の打合わせの話合いが始まりました。皆さん、それぞれたくさん良い意見をおっしゃっていました。いろんな話し合いの中で、浄霊、助師資格、自然農法、無農薬の種、お花の話も出てきました。

会合が始まって少ししてから、私は、勘違いしていたことに気付きました。「あれ？今日は、和田先生、中川先生をお迎えしての勉強会じゃないの？和田先生のご配慮もあったかと思いましたが、私は、信者代表の立場じゃないよ。私は、場違いじゃないの？」と思いました。ですから、ただただ、皆さんのお話を聞かせていただいているだけでした。

代表者会に参加させていただいて気付いたことがあります

ました。その前に、私は、「自分が救われたい」と思い、聖地直結の会に入会させていただきましたが、去年七月二三日、西村代表をお迎えしての徳島県信徒集会の時、実は、人をお救いするご用にお使いいただくために入会したのだと気付かせていただいていたのでした。今日の会合で、現実には「自分が救われたい」との思いが強く、以前の自分と全く変わっていなかったと痛感しました。恥ずかしい事に、私は、本当に自覚していませんでした。

この日、明主様から、ちゃんとご用にお使いいただいていること、自分の信仰の立ち位置を教えてくださいました。未熟な私ですが、助師資格をいただきたいと思うようになりました。何故なら、このままでは、いつまでたっても「明主様、助けて下さい信仰」を繰り返してしまからです。自分なりに考えましたが、助師資格試験を受けさせていただく条件として、「自分が救われたい信仰から人様を救う信仰へ」と、お許しいただくことを目標にさせていただきます。

この文章をまとめていた時、嘔吐、下痢の浄化をいただきました。明主様から「分かったよ。気持ちを受け取つたよ」とお返事をいただいたように感じました。代表者会に参加させていただいて良かったです。心強い信徒代表の皆さんと知り合えたことに感謝しています。明主様ありがとうございます。

## 祈願で変化した職場の人間関係

鈴鹿グループ H K

今回、二度にわたり、ご祈願を通していただいた奇蹟について奉告させていただきます。

昨年九月から派遣会社の社員として、自動車製造の下請けの会社に勤めるようになりました。そこでは、自動車の部品の入庫・出庫の関係をしており、発泡スチロールや樹脂、金属等種々の素材、軽いもの、重いものを台車等に整理し、自動車を製造する本社へ届けられるようにしていました。十数人の工場内では、単独で担当する仕事が多量で、中には私が入って四〜五人で担当する仕事もありました。

(※文中、メシヤ様とありますが、明主様のことを私はメシヤ様と呼ばせていただいておりますのでお許しく下さい。)

そのグループの中であったことですが、五人(臨時で六人の時も)の中で二人の中心人物(一人は若い男性でもう一人は四十代の女性)がいました。その二人が出す雰囲気は、仕事を回し切ってやり切った、早く終わらせようというように私には映っていました。その他の人は

二人のやり方に従い、多忙な時はそのまま残業。もし早く終われば人の仕事を手伝いにいくという、要するにバリバリ仕事を行う、できる人たちです。責任感の強さや時間の励行は素晴らしかったです。でも口調のきつさは、並外れていました。ミスをする私も当然問題はありますが、それでもきつい言葉には閉口しました。やり方について少し言い返そうものなら、更に厳しく叱責されました。後から入った私は、教えられる立場なので神妙に従おうとしましたが、同じことで注意を受けると集中して聞けなくなる、その素振を見てまた注意する、「聞いとんのか!」と。さらに困ったことにじっくりやるように言ったと思うと「遅い遅い」と言う時があり、どっちにすればいいのか?また、私の作業を見ていて、ミスをすると注意する。(恐い人にじつと見ていられると緊張してミスをしてしまいますよね)それに対してまた、叱責やら手本を交えて指導が入るといように。〃仕事は助け合っておこなうものだろう!〃と、どれだけ口に出したかったことか、私も自己反省するところを整理し、いくつか実行しようとはしましたが、関係がうまくいかず、精神的に参ってしまいがちでした。耐えられずに数週間で辞めていった仲間もいましたが、私も苦しかったです。

そんな折、月に一度日曜日に、Tさん宅で太田先生を囲んで行っていた家庭集会で、先生が祈願の話がされてきました。「特に浄化者と入信対象者へは、個人やグルー

プでのご祈願をさせていただきましよう」と。あまり気乗りしませんでしたが、先生が勧めてくれるので、職場の人たちの名前を挙げました。その翌日、いつものように仕事に出るとどうでしょう。あの一人が先週までと打つて変わり、全くと違っていいほど、怒らなくなりました。びっくりしました。一八〇度違うとはこのことです。あまりの劇的な変化で、思わずその日の夜に、先生に電話したのを覚えています。その後しばらくいい調子でいき、九〇度変わったこともあったようですが、以前ほどでなく経過していきました。

時が移り、私が単独で仕事をする場所に移った時期があり、その時に私とあの若い青年とが入れ替わりました。私がまた元の場所（グループで行う場所）に戻ったのでした。あの青年がいないのでいいかなと、思って始めたのも束の間、あの女性がグレードアップ（もっと強いパワハラ）していました。恐らく青年が抜け、頼れる者がおらず一人で背負い込んだのだと思いました。以前の悪夢が再来しました。「自分で考えてやれ」と「何でも聞いてこい」の両極端な話を日々聞かされました。それに輪をかけたのが、細かさどひつちくどさ（非常にくどいの方言）でした。まるで小さい子へ注意するように、メモ帳に書かされることも多々ありました。私はこの時はもう「はい！」「はい！」としっかり返事し、何も言い返さず黙々と「誠」だけを込めながら仕事をやり続ける

だけでした。私の心が折れなかった理由があります。メシヤ様の「誠」についてのお歌「如何ならむ 悩みに遇ふも躡ら<sup>たぬ</sup>はじ 誠一つに進みゆく身は」でした。毎朝晩、読み上げていたこと。二つ目は、週末に妻と次女と出かけておいしいケーキとコーヒーをよばれて（いただくの意）、気分転換を図れたこと。そこで愚痴を吐き出せたこと。あと一つは、知人から送られてくる聖地の木々やお庭の写真や動画を観ることです。水晶殿から見ると出や彩雲も格別でした。しかし、昼間は現場で叱られる日々…。

そんな折、家庭集会で、太田先生がまた祈願のことを話されました。今度は迷うことなく祈願しました。するとその翌日、またまた奇蹟が起こりました。女性が真逆になっていました。こんなに劇的に変わるものではないか。一度ならず二度も！霊界からお働きになるメシヤ様のみ力の偉大さを、強く感じさせていただきました。そしてこの体験を通して地域集会や家庭集会へは、必ずメシヤ様やご先祖様がお働き下さっていることを実感させていただきました。本当にありがとうございます！

あれ以来、しばらく平穏な日々が続く、再度、単独で行う担当場所が変わり、最近では、ある事情により本社での勤務に変わりました。叱られることも一切なく、空調の効いた場所で、ありがたく働かせていただいています。メシヤ様のお計らいには、ただ驚かされ、ありがた

さで一杯です。ご守護はまだありました。あの二つの事件を経験したことで自分の考えや気持ちを伝える難しさから、どのようなものの言い方をするかとは分かってくられるのかを考えるようになったことです。長年、教師として人前で話すことを経験してきた自分でしたが、いい勉強をさせていただきました。これもメシヤ様のお計らいですね。ありがとうございます。

現在み教えの拝読、家族への浄霊、親戚・知人への遠隔の浄霊を日々させていただいていますが、今後、より一層ご用活動にお使いさせていただけるよう精進させていただきます。大神様、メシヤ様ありがとうございます。

## 感謝奉告

### かわいいおばあちゃんに学ぶ

東大阪グループ MY

私のブロックに、KMさんという八九歳になられた独り暮らしのかわいいおばあちゃんがいらっしゃいます。という私も八〇を過ぎたおばあちゃんですが。彼女は一八歳の時、熱心なお母様の勧めで、この道にご縁をいただいたそうです。その頃は、月に一度、大阪の十三(じゅ

うそう)にある教会の月次祭に参拝される程度だったそうです。二四歳で結婚され、二人のお子さんに恵まれ、これからという二九歳の時、最愛のご主人が首にできた骨肉腫で治療の甲斐もなく亡くなられました。その頃は、ご主人の仕事の関係で、横浜に住んでいました。子供を二人連れて大阪に帰ってきたのですが、舅姑さんからは実家には帰らせてもらえず、同居することになりました。

息子さんが四年生、一歳の時に左足の膝に骨髄腫ができて、追手前病院に入院され、治療する内、医師からは足の切断を迫られました。足を切断しても生命の保証はないと厳しい状況です。息子さんは唯一、浄霊をいただいている時だけは、痛みが和らぎ笑顔を見せてくれたそうです。「ご浄霊をいただくと、こんなに気持ちが良いのにおばあちゃんはどうしてくれないの」との息子さんの一言で、気難しい頑固なお姑さんが入信されたそうです。お孫さんの言葉はすごいですね。「足を切断しても」という医師の言葉で家に連れて帰られました。家での療養も、二〇日足らずの六月の地上天国祭の日に旅立たれました。その日から四十日、今度は舅さんが八〇歳で亡くなられました。

娘さんは結婚されていましたが、三三歳の時に乳癌が肝臓に転移していて、三歳になるかわいい息子さんを残して亡くなられました。そのお子さんも今年で三一歳になられ、近々結婚の予定だそうです。

それから五年、彼女が六五歳の時に大腸癌になられ、末期の癌でしたが、手術、そして沢山の方々のご祈願とご浄霊で生還されました。

平成一七年、九九歳になられたお姑さんに尽くし切られ、霊界へと見送られました。

彼女は三年前、コロナにかかりましたが、重病化することなく、自宅待機で皆さんのご祈願、想念の浄霊でお元氣になられました。今では六時半頃、目が覚め、ベッドの上で身体をならし、身支度をし、朝拝をするために二階のご神前にお日供を持って上がります。足がふらつきこぼすこともありすが、朝拝をして、ご浄化している方々を思い浮かべ、ご祈願され、「明主様を倣いて」のみ教えの拝読をされ、それから自己浄霊をされています。それが終わると下にあるご仏壇に朝食をお供えし、朝の挨拶をして、最後に自分の朝食です。一〇時頃になることもあるそうです。み教えの拝読、自己浄霊をされることで一日を前向きに過ごすことができるということです。

息子さんの亡くなられた時から、地上天国祭と御生誕祭は欠かすことなく、参拝されています。願うことなら、もう一度、箱根の参拝が許されたいと、希望と夢を持っていると笑顔で話してくれます。

祖霊大祭には、たくさんの祖霊様に大神様、明主様のみ光を、と誠の慰霊をされています。

彼女は逆流性食道炎のため、夜中にもどすこともあり、その時はとても苦しいそうです。このため医院にかかっています。先日もその医師から「二人で診察に来られ、元氣ですね」と言われ、笑って話してくれました。

私の方は、主人が亡くなって丸一年です。今まで主人の夢を見たことはなかったのですが、二月一日、祥月命日の朝方、夢を見ました。その時の主人は、亡くなられたブロック長さんたちと、楽しそうに笑顔でご利用していました。そして、私のところに来て、「あの人に、この人に」と言っている時に目が覚めました。霊界で一生懸命ご利用している主人に恥じることなく、今の自分に許されるご用を、これからも微力ですが、させていたいただきたいと、思いを新たにいたしました。ありがとうございました。ありがとうございました。これからもよろしく願います。



左からAさん、Kさん、Mさん

## 「令和五六七の年」

高頭 和生

現在、土の聖地平安郷は、奥竹林美化の建設奉仕が行なわれています。

今回の奥竹林美化は信徒の声から始まりました。今年一月初旬、四〇代の庭苑作業の経験がある男性信徒が平安郷に来られました。彼は信仰二世で、親は熱心なお世話人さんでした。子供のころは教会に行っていました。が、社会人になってからは、年に数回センターの感謝祭に顔を出すぐらいの未活動の信徒でした。浄化中のお母様から背中を押されて、家族の代表として平安郷建設に参画してくださいました。庭苑管理担当の職員といっしょに東山（春秋庵の東側の山）や庭苑内をまわりました。奥竹林に入った時、彼は「先生、ここからやりましょうよ」と、力強く訴えました。

奥竹林は平成7年に救世教が入手し、信徒の奉仕によって整備されました。たいへん神秘的な清い霊域でした。古くから砥石が採れる場所でもあり、竹林の奥には尖った岩と平たい岩（通称、男岩と女岩と呼ばれる大きな岩）があり、その脇には湧水があります。映画のロケにも使われたことがあります。しかしこの数年、コロナ禍に伴い、宿泊奉仕が制限されていたこともあり、手が入れられず荒れた状態になっていました。彼の一言で、私たちはそこが清く美しい竹林であったことを思い出し、早速建設奉仕の準備を整え、二月九日から本格的に美化建設奉仕が始まりました。

現在は全国から奉仕者が集い、神さまから受ける喜びを感じる日々が続いています。誠ある信徒を通して、明主様がお働きになり、建設の方向が定まって行くことをみせられました。神さまのお働きを型として顕わしてくださいましたように思えてなりません。

今回は、明主様が昭和二七年一〇月二〇日に京都劇場で、春秋庵及び池畔亭（現在の平安郷研修センター）を入手された際のお喜びに満ちたご講話を、ご一緒に学びたいと思います。この日の二日ほど前に春秋庵のご購入手続きをされたそうです。時を同じくして、京都在住の教会長たちが道路を隔ててある池畔亭のご購入をされました。売り出しがあり、明主様にお尋ねしようとしたが、東京へ出かけておられ連絡が付きませんでした。教会長たちは話し合い、自ら手打ち金を集められ入手されたそうです。このことは、熱海に戻られた明主様へ事後報告として伝えられました。教会長たちは許可得ずしての行為に多少の不安があったようですが、逆に明主様は大変お喜びになりました。神さまのご経綸が信徒を通して進められた一つの型のようにも感じ取れるエピソードです。翌日明主様は京都へ入り、春秋庵をご覧になりました。その翌日のご講話です。

（前略）今度こちらに来た目的は知っていますでしょうが、嵯峨の土地と、それから最初手に入れた土地のすぐ前に、少し小さいですが手に入ったものがあります。そういう点について非常に奇蹟があるのです。それを話しますと、最初の方は前に話した通り一万八千坪です。それに百坪くらいの家が建っているのです。その家はなんだかはっきりしなかったのですが、昨日行ってみます



と非常に良い家なのです。なんだかこしらえかけのような話があったのでどうかと思つていたところが、立派にできあがつて人が住んでおりまして、住むとしては別に手を入れなくても良いくらいに完備しております。それでたいへん喜んだのですが、来年の春はあそこに住まれる家なので喜んでゐるわけなのです。あそこは私が少しくらい滞在するには充分ですが、ただ信者さんが大勢来た時に困るのです。どうしても庭にちよつと張るよりしかたがないのです。すると、最近五、六日前にすぐその前の所に地所が千数百坪、建坪が二百坪余りの家があるのです。それを昨日見たところが、なかなか間数があるのと、どういうわけでもできたのか座敷が立派で板張りが多いのです。ただそれに畳を敷けば随分大勢の人が入ります。ですから信者さんがかなり入って休むこともできるし、寝ることもできるのです。実におあつらえ向きの家と云つたようなものです。それが急速に、それこそ三日か五日で決まってしまうと、十七日の晩に決まったという電話が京都から来たのです。ちよつと、私がこちらに来る前の晩ですから、実に神様のやられることは、一分の隙もないというわけです。始終奇蹟には慣れつこになつてますが、それでも今度には、かなり驚かされました。昨日見ますと、庭なんかも今は藪のように生い茂つてますが、すっかり手を入れるとなかなか良い庭です。家の普請も私は、いい加減値段も格好ですからバラックくらいのもと思つたところがなかなかそうではないのです。そうとう見られる建築です。ですから、そこに畳を敷いてちよつとした所を直すくらいで立派に役に立つのです。庭なんかも奉仕隊の人たちが生い茂つ

た草を刈るとか広い庭にすれば、実に良い庭になると思います。それで来年の四月に来るつもりですが、それまでに草刈りをやつてもらえばすっかり見通しがつきます。これは京都の教会の方なんかやってくれると思いますが、まあ、そんなつもりです。それで来年の春に来て、五、六日こちらにいて、いろいろ計画を立てようと思つております。(後略)

この年の六月は、箱根の美術館が完成し熱海瑞雲郷の建設が多くの奇蹟の中で進められていました。また、布教現場においても数多くの奇蹟が顕れていたことは、皆さまも数多くのみ教えや体験集でご存じだと思ひます。そのような中で明主様は、「実に神様のやられることは、一分の隙もないというわけです。始終奇蹟には慣れつこになつてますが、それでも今度には、かなり驚かされました。」と、神さまが平安郷の建設をお進めになる為のご準備のご経綸と、教会長たちが進められた信徒が聖地建設をするために滞在する施設のご購入に、「かなり驚かされました」とお喜びになられたのです。この池畔亭は平成一六年に、現在の平安郷研修センターとして生まれ変わり、今年二月に二〇年を迎えました。平安郷建設奉仕者の宿泊、また研修の場として活躍しています。私たちは、神さまがご準備された聖地建設のため施設を使わせていただき、神さまのご経綸とそれをお進めになれる明主様のお喜びに倣つて、令和の現在、土の聖地平安郷建設を、皆さまとご一緒に進めてまいりたいと思ひます。

次回は、この日のご講話の後半でお示し下さっている京都の文化を、明主様に倣つて学んでゆきたいと思ひます。 つづく

## 農民とワシ

人から受けた恩は

どんな形であれ必ず返す

農民が道を歩いていて、ワナにかかったワシをみつけました。そのワシがとても美しく悲しそうだったので、農民は哀れに思い、ワシを逃がしてあげました。

数日後、農民が崖のそばの岩の上に座って休んでいると、かぶっていた帽子をワシがいきなり取り上げ、すこし離れたところに落としました。そして、農民が帽子を



追いかけて、拾おうとしたとき、崖くずれが起きました。もし、農民がそのまま岩の上に座っていたら、大ケガをしているところでした。ワシのお蔭で難を免れることができたのです。

お話は、「ワナにかかったワシが、殺されると思ったところを農民に助けられ、数日後に、今度は救われたワシが農民を助けて「恩返し」が出来た」という素晴らしいお話です。

「感謝」という単語は「報恩感謝」の「報恩」をはぶいた言葉だそうです。従って「感謝」と短かく言っていますが「報恩」すなわち「恩に報いる」という意味があることを知って下さい。

社会では、相手に「感謝」する時に「ありがとう」という言葉で終わりますが、時には「形」や「行動」で気持ちを表すことが大切です。

皆さんの家庭でも、一生懸命に働いてくれるお父さんやお母さん、さらに「仲の良い兄弟」などに「自分の出来る感謝」を形に表したらどうですか。行動で示しましょう。例えば、お父さんへの「恩返し」に、庭掃除を…。お母さんへの「恩返し」に、皿洗いを…。兄弟の「恩返し」に、トイレ掃除など…。

きっと皆が笑顔にあふれることでしょう。期待します。



ひな祭り

世界救世教 明主様と聖地に直結する会  
(聖地直結の会)

〒413-0006

熱海市桃山町26-1 救世会館 1階

電話 0557 85 8060

FAX 0557 85 8185

[seichicyokketsunokai@outlook.jp](mailto:seichicyokketsunokai@outlook.jp)



No. 70 2024年3月15日発行

世界救世教 明主様と聖地に直結する会

